

ドキュメンタリー映画上映会

「フツーの仕事がしたい」



過労死

ワーキングプア

日雇いハケン

下請け孫請け

使い捨て

格差社会

非正規雇用

長時間労働

ネットカフェ難民

懇親会あります！
詳細はHPにて

とき	①5/31(土) 夜の部	19時 ~ 21時
	②6/1(日) 午前の部	10時 ~ 12時
	③6/1(日) 午後の部	14時 ~ 16時

(開場：上映の30分前)

映画：70分間
各上映後には
監督講演あり

ところ 仙台市市民活動サポートセンター
地下1階 市民活動シアター [裏面地図参照]

料金 予約 大人1300円 学生1000円
当日 大人1500円 学生1200円 [予約は下記連絡先へ]

主催 WorKafe (ワーカフェ)

映画情報 監督：土屋トカチ 製作：白浜台映像事務所/映像グループ ローポジション 2008年

後援 仙台市教育委員会、毎日新聞仙台支局、公益財団法人仙台市市民文化事業団

TBC東北放送、 仙台放送、KHB東日本放送、 河北新報社

連絡先 メール：workafe219@yahoo.co.jp
HP：<http://workafe.nomaki.jp/>

TEL：080-1294-9528 (最上)
ツイッター：<https://twitter.com/WorKafe>

あらすじ

皆倉信和さん(36歳)は、根っからの車好き。高校卒業後、運送関係の仕事ばかりを転々とし、現在はセメント輸送運転手として働いている。しかし、月552時間にも及び労働時間ゆえ、家に帰れない日々が続き、心体ともにポロポロな状態。「会社が赤字だから」と賃金も一方的に下がった。生活に限界を感じた皆倉さんは、藁にもすがる思いで、ユニオン(労働組合)の扉を叩く。ところが彼を待っていたのは、会社ぐるみのユニオン脱退工作だった。生き残るための闘いが、否が応でも始まった。



WorKafe (ワーカフェ)から

主人公の皆倉さんは「フツー」ではない過酷な職場で働いていましたが、仕事に限界を感じるまでは労働組合に相談しませんでした。

多くの人々もギリギリまで頑張ってしまうことが多いと思います。弁護士や労働組合に相談に行くときは、追い詰められた状況になってからです。

職場や家庭で相談できず、一人で抱え込んでしまうこともあります。そこで、限界になる前に少しでも悩みを打ち明けたり、互いに励ましたり、相談できる場があれば、抱えている悩みの深刻さも違ってくると思います。

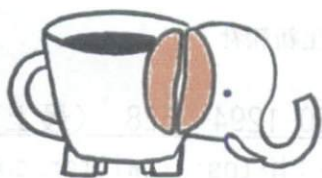
また、本当に解決が必要な時は弁護士や労働組合に相談できる備えがあれば、不安も軽減されると思います。

WorKafe (ワーカフェ)は仕事の悩みを聞いてほしいという気持ちに答え、問題を共有して励ましあいながら、要望があれば解決の橋渡しをする、働く人々のグループカフェです。

現在は会社員、大学生が参加しています。他にも派遣社員、契約社員、パート・バイト、フリーター、主婦・主夫の参加も大歓迎です。参加方法、活動日程はHPをご覧ください。

【活動内容】

- 座談カフェ…仕事や生活の悩みを気兼ねなく話せる場
- 相談カフェ…労働相談や労働組合、弁護士への橋渡し
- 勉強カフェ…労働問題やその解決法などの学習会
- イベント…映画、講演会など



土屋トカチ監督

1971年京都府生まれ。新聞配達、書店員、工場請負作業員、日雇い労働等を経て、99年より映像制作を開始。同時期、現所属事務所の映像グループ ローポジションのメンバーと出会う。

劇場デビュー作「フツーの仕事がしたい」(08年)は、英国・第17回レインダンス映画祭、UAE・第6回ドバイ国際映画祭において、ベストドキュメンタリー賞を受賞。

近作は、「『原発』都民投票 これまでとこれから」(2012年)、「経年劣化」(2013年)、「ブラック企業にご用心! ~就活・転職の落とし穴~」(2013年)、「誰のためにTPP? ~自由貿易のワナ~」(2013年)。



映画会場地図



アクセス

〒980-0811

仙台市青葉区一番町4丁目1-3

市民活動サポートセンター

地下1階 市民活動シアター

Tel 022-212-3010

公共交通機関

- ・地下鉄広瀬通駅 西5番出口すぐ
- ・市営バス「商工会議所前」徒歩3分

